

子どもが小学生になり、学校にも慣れ親しんでくると、親の役割も薄らいできたような気持ちになり親は安心しがちであると思う。しかし、心身ともに発達著しい少年期のこの時期、親の役割はますます重要になってくる。以下に教育における家庭の役割について述べるとする。

親の基本的役割は、子どもの生活における身体的、精神的、物質的、社会的安全を保障することであるが、そのためにも、よりよい家庭づくりを心がけ、基本的生活習慣をしっかり確立していくことが大切である。最近では朝食をとらずに学校に行ったり、親とともに何時までも起きている子どもが増えてきていると言われている。これでは、子どもの心身の健全な成長を期待することはできない。よい生活習慣は「一生の宝」とさえ言われるが、これを身に付けさせるためには、子どもへの適切なお手本を示すことのできる指導者としての親の役割を十分に発揮していく必要がある。起床、就眠の時刻、身の回りのしまつ、あいさつ、行儀や礼儀、手伝い、学習、物や金銭の取り扱い等々、それぞれの家庭の約束事、きまりなどが自然にできあがり、それに基づいた規律ある生活が送られていくことが大切である。このような生活の中で、子どもの自立が促され、はつらつとした心身の成長が約束されていくであろう。

また、家庭教育は、父親と母親がそれぞれの特性を生かしながら、互いに協力して親の役割を果たすことによって行われる。乳幼児期はどうしても母親の役割が大きかったが、子どもの成長に伴い父親の役割が大きな意味を持ってきている。父親は、子どもにとってもっとも身近な男性のモデルであるといえる。たくましさや強さの典型として子どもとふれあいながら、物事にチャレンジしていく勇氣、成し遂げるためのがまんなどを体験させるとともに、人間として、してはならないこと、しなければならないことなど善悪の区別をしっかりと教えてあげることが大切であろう。特に、弱いものいじめ、度を過ぎた乱暴、友だちをばかにしたりする言動などさまざまな機会をとらえ、いましめていくことが重要である。こうした役割を果たすためには、父親も、常日頃から子どもの教育に参画していなければならない。子育ては父親母親の協同の責任であることを認識していく必要がある。

一方、母親の役割としては、人間としてのやさしさや思いやりの心を育てていくことが大切なことといえる。目にふれる自然や動物を愛でたり、弱い立場にあったり困っていたりする人々に対する共感や思いやりの言葉など日常生活の中で母親が見せるさりげない言動が、子どもに影響をおよぼしていることを心にとめていくことが大切である。

そして、祖父母の同居している家庭では、家族がたくさんいるという点で、子どもにとってより好ましい条件にあるといえる。しかし、ともすると、祖父母と父母とで養育や教育の方針がくい違ったり、祖父母がとかく子どもを過保護にしまったり、波風の立つことも少なくなく、敬遠されがちである。祖父母は、子育ての豊富な経験を持ち、穏やかでやさしく、こまやかなおもいやりをもって子どもに接してくれると思う。また、社会の第一線を退いた祖父母にとって、同居により他の世代と交流していけることは、高齢者が陥りがちな閉鎖的な生活に活力を与えてくれる。子どもにとっても、共に生活すること

を通して、人間が年をとるといことがどのようなことなのか実感することができ、老人に対するいたわりや思いやりの心も自然に育っていくであろう。

祖父母と同居するにあたっては、まず、親が祖父母を尊敬し、大切に扱うことが重要である。特に親は子どもの前では、そのことを徹底することが大切である。そして、祖父母の経験に学び、生かすべき点は極力生かしていくよう努めることが良いと思う。また、父母と祖父母との間で不一致のあるような時も、子どものいないところで良く話し合い、調整を図っていくようにしなければならない。このように、相互の謙虚さとお互いを立てあう態度があれば、祖父母の同居はとても有益で、子どもにとって何にもまして良い経験や教育になるはずである。

また、子どもは家庭の中でのびのびと自己実現することが必要である。子どもに親が直接説教するよりは、本から子ども自身が学んで、感動するほうがはるかにききめがあると思う。衣食住や健康や親子関係や兄弟関係と複雑な家庭生活のなかで、ひとりひとりが自由と独立とをもち、年齢のずれ、性質のちがいなどに対する親密ないたわりをもって、家庭生活を送るために必要なものは、ものを考えるための多くの参考材料といえる。最も身近なものとして、子どもたちの書いた作文集には、子どもも親も大人も考えなおさなければならない様々な材料が多くあるということを忘れてはならない。

わたしは夕食のあとなど、家族全員が当番で本を読む習慣などがよいと思う。子どもには本の提供係をたのむと、子どものことも分かり楽しいと思う。また、子どもの書いた詩の本や動物や虫や魚など飼育した話のある本や図鑑なども楽しい話題と反省とを与えてくれるであろう。文学を読むことも、生活に夢を持つことができるために大切なことである。夢があるということは、心のやさしさがふくらんでいくものである。また本を読むだけでなく、絵を描く楽しみなどを味わわせることも必要であろう。また、作品には、発達段階に応じて心の変容があらわれているものである。その絵の発表の場として居間をギャラリーにすると、子どもは意欲的になり、家族は共通の話題が多くなる。自由に批評しあえる楽しい団らんの場となり、素晴らしい家風が築かれるであろう。